



かがやき

令和5年10月31日
守口市立寺方南小学校
学校だより第7号
校長 棹本 達也

学校教育目標 「自ら学び 心豊かに たくましく」

～ 一人ひとりが いきいきと輝く学校 ～

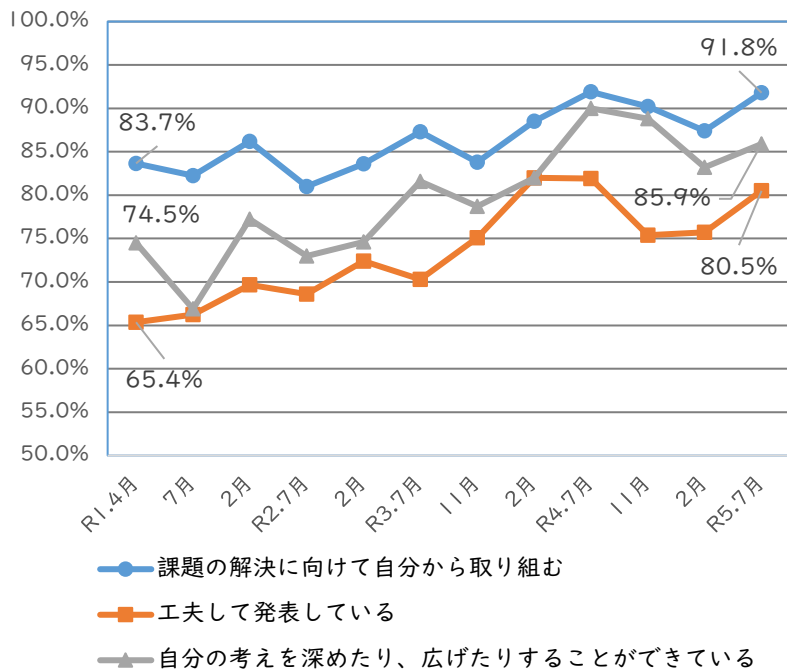
木々の葉が色づき始める季節となりました。

子どもたちは、読書ビンゴに挑戦するなど「読書の秋」を楽しんでいます。ご家庭でも、家族の皆さんで読書する時間をつくってブックトークなどをしてみてはいかがでしょうか。

さて、4月18日に実施しました全国学力・学習状況調査（6年生）及び大阪府すくすくテスト（5・6年生）の結果分析において、子どもたちの学力が着実に定着していることやアンケート調査の結果から本校の子どもたちの良いところがたくさん確認できましたので紹介します。統合後、寺方小学校と南小学校で取り組んできた良い所を1つの取組みにして、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育成してきた成果の一部が本調査の結果にも表れてきています。結果概要から子どもたちの頑張りなどを見ていただき、家庭・地域での声掛けの参考にさせていただくなど、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

☆ その1「学習意欲」が高まってきています ☆

『授業での学習状況に関するアンケート調査』



「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」のアンケート項目では、平成31年度4月に肯定的回答をしていた児童が83.7%でしたが令和5年度7月 **91.8%に向上**しています。

「話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」のアンケート項目では、65.4%から **80.5%に向上**。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」のアンケート項目では、74.5%から **85.9%に向上**。

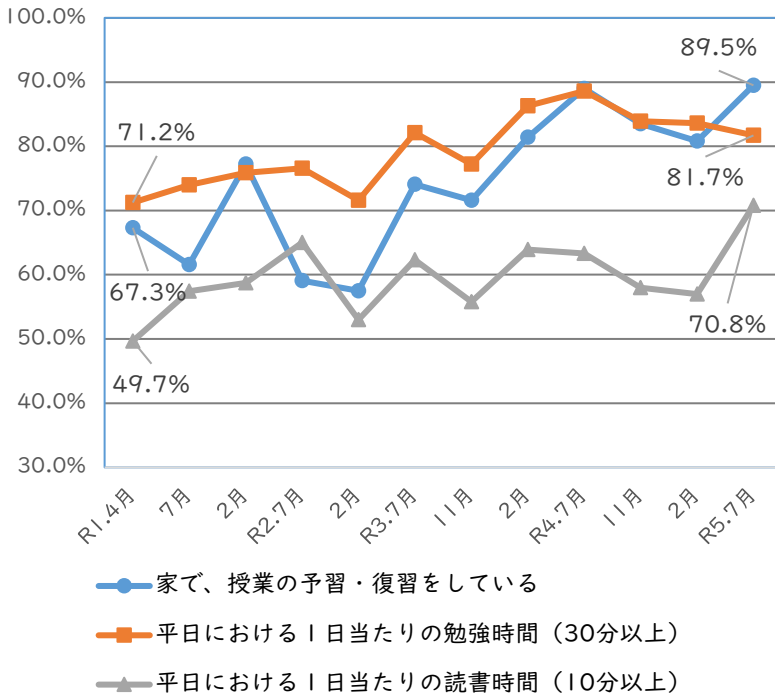
守口市では、平成31年度（令和元年度）より年間3回、4～6年生の児童に対してアンケート調査を実施しています。調査項目は全国学力・学習状況調査「アンケート」児童質問紙の中から、授業での学習状況に関する3項目と家庭での学習状況に関する3項目を選んでいきます。（※令和2年度は年間2回実施）

上のグラフと次のページのグラフは、本校の子どもたちのアンケート調査の肯定的回答を折れ線グラフで表したものです。統合後、**学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育成してきた成果の一部がアンケート調査の結果にも着実に表れています。**



☆ その2 「自学自習力」が身に付いてきています ☆

『家庭での学習状況に関するアンケート調査』



「家で、授業の予習・復習をしていますか。」のアンケート項目では、平成31年度4月に肯定的回答をしていた児童が67.3%でしたが、令和5年度7月**89.5%に向上**しています。

「学校の授業以外での平日における勉強時間はどれくらいですか。」のアンケート項目では、30分以上と回答した児童が71.2%から**81.7%に向上**。

「学校の授業以外での平日における読書時間はどれくらいですか。」のアンケート項目では、10分以上と回答した児童が49.7%から**70.8%に向上**。

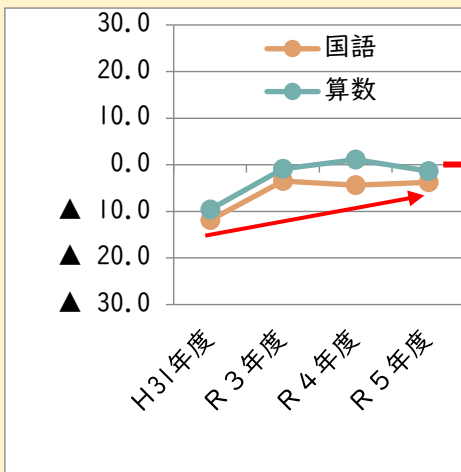
☆ その3 学力が着実に定着してきています ☆

『令和5年度全国学力・学習状況調査(教科に関する結果)』

実施日 令和5年4月18日(火)

平均正答数(問)		本校	大阪府	全国
6年生	国語(14問中)	8.9	9.2	9.4
	算数(16問中)	9.8	9.9	10.0

全国や大阪府の平均との差は0.5問以内です。



このグラフは、全国平均を基準として本校の学力状況を表したものです。
(令和2年度は全国学力・学習状況調査未実施)
統合後、本校の子どもたちの学力は着実に定着しています。

※ 本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

- 調査の目的**
 - 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査の対象**
 - 小学校及び義務教育学校前期課程 第6学年
- 調査の内容**
 - 教科に関する調査(国語、算数)、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査(児童生徒に対する調査 / 学校に対する調査)

☆ その4 「書く力」・「計算する力」が着実に定着してきています ☆

令和5年度全国学力・学習状況調査（「国語」 区分別の平均正答率）6年生

分類		区分	本校 (%)	大阪府 (%)	全国 (%)
要領の領域 学習指導	知識及び技能	1 言葉の特徴や使い方	69.9	71.0	71.2
		2 情報の扱い方	54.4	62.6	63.4
		3 我が国の言語文化	—	—	—
	思考力 判断力 表現力	A 話すこと	64.6	70.9	72.6
		B 書くこと	32.9	24.2	26.7
		C 読むこと	67.5	69.2	71.2
問題形式	選択式	67.2	72.5	73.6	
	短答式	60.8	63.0	62.7	
	記述式	53.6	48.4	51.1	

本校の子どもたちの強みは、「書くこと」・「記述式」問題形式の正答率が全国の子どもたちの平均と比較して高いところです。6年間、「書くことに力を入れてきた成果」が表れています。一方、「必要な情報を見つける「情報の扱い方」や目的や意図に応じ話の内容を捉えるなど「話すこと」に弱い面が見られます。

令和5年度全国学力・学習状況調査（「算数」 区分別の平均正答率）6年生

分類		区分	本校 (%)	大阪府 (%)	全国 (%)
学習指導 要領の領域	A 数と計算	69.0	66.8	67.3	
	B 図形	48.7	48.4	48.2	
	C 測定	—	—	—	
	C 変化と関係	68.7	70.8	70.9	
	D データの活用	59.5	63.8	65.5	
問題形式	選択式	52.7	57.1	57.7	
	短答式	75.6	74.7	74.7	
	記述式	47.8	46.5	47.3	

本校の子どもたちの強みは、「数と計算」の領域、「記述式」問題形式の正答率が全国の子どもたちの平均と比較して高いところです。6時間目の後に行う計算「ぐんぐんタイム」を継続して取り組んできたことや自分の考えを書くことに力を入れて取り組んできたことの成果が表れています。一方、「データの活用」の領域に弱い面が見られます。

☆設問例☆ 令和5年度全国学力・学習状況調査「国語」で全国的に課題の見られた設問

◆図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

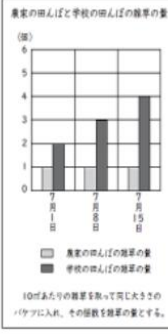
具体的な設問例
(大問1二)

【川村さんの文章】の□□に、下の条件に合わせて、学校の米作りの問題点とその解決方法について書く。

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アいがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとくらべてみました。イきは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



【川村さんの文章】の一部

正答率：26.8%

〈条件〉

- ・問題点については【川村さんの文章】のグラフと【カード④】のそれぞれから分かることを書く。
- ・問題の解決方法は【カード⑤】をもとに書く。
- ・60字以上100字以内で書く。 ※【カード④】【カード⑤】は紙面の都合上省略

〈正答例〉

グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしょうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。(100字)

〈誤答例〉

グラフから分かるように、農家も雑草が生えています。このままだと雑草に栄養をとられて米のしょうかくが減るかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草を取る回数と人数を増やしました。(92字) …19.1%

全国的に課題の見られた設問 (全14問中で最も正答率が低かった設問→「最も難しかった」設問) で、全国の子どもたちの平均正答率は26.8%で約4人に1人しか正答できていない状況です。本校の子どもたちの正答率は、■■■■%でした。『何%でしょうか? 次号でお知らせします。』

◆複数の資料を読んで理解したことを関連付けながら、自分の考えをまとめることに課題がある。

具体的な設問例
(大問2四)

【資料1】、【資料2】、【資料3】を読み、運動と食事について分かったことをもとに、下の条件に合わせて、これから自分ができそうなことをまとめて書く。

(栄養素の主な働きと食品の例)

主にエネルギーのもとになる

主に体をたくわえるものになる

主に体の調子を整えるものになる

【資料3】より抜粋
※【資料1】【資料2】は上記の具体的な設問例に掲載

正答率：56.4%

〈条件〉

- ・資料を読んで、運動と食事の両方について分かったことを書く。
- ・分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを書く。
- ・80字以上100字以内で書く。

〈正答例〉

健康に過ごすためには、自分に合った運動をしたり、バランスのよい食事をとったりすることが大切だと分かりました。わたしは、これから、縄とびを続けて持久力を高めたり、苦手な野菜も食べたりしようと思います。(99字)

〈誤答例〉

好きなものばかり食べると、栄養がかたよってしまい、つかれやすくなるので、バランスよく食べることが大切だと分かりました。だから、わたしは、これからも、お米やお肉や野菜をバランスよく食べていきたいです。(99字) …12.1%

誤答例の分析と課題

このように解答した児童は、運動に関する資料と食事に関する資料の両方に基づいて自分の考えをまとめるという条件があるにも関わらず、食事に関する資料の内容や考えのみ書いており、運動については言及していない。複数の情報を関連付けながら、自分の考えをまとめることに課題があると考えられる。

この設問も全国的に課題が見られ、全国の子どもたちの平均正答率は56.4%でした。本校の子どもたちの正答率は■■■■でした。また、無解答率(全く解答していない子どもの割合)も全国で8.5%した。『本校の子どもたちの正答率は何%でしょうか? 次号でお知らせします。』

☆ その5 たくさんの良いところがあります ☆

令和5年度全国学力・学習状況調査 (児童アンケート質問紙 調査結果) 6年生

児童アンケートにおいて、肯定的回答の割合が高く、全国を基準として

強みの見られた質問

- 「学校に行くのは楽しいと思う」 (本校93.9%、全国85.3%)
- 「人が困っているときは、進んで助けている」 (本校93.9%、全国91.6%)
- 「人の役に立つ人間になりたい」 (本校96.3%、全国95.9%)
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」 (本校97.6%、全国97.0%)
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」 (本校95.1%、全国91.0%)
- 「友達関係に満足している」 (本校91.4%、全国90.3%)
- 「先生は、あなたの良いところを認めてくれている」 (本校96.3%、全国89.8%)
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していない所について、分かるまで教えてくれる」 (本校97.5%、全国93.0%)
- 「国語の勉強は大切だと思う」 (本校96.4%、全国94.2%)
- 「国語の授業では、言葉には、相手の好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいる」 (本校90.3%、全国83.9%)
- 「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている。」 (本校89.0%、全国76.8%)
- 「算数の授業は大切だと思う」 (本校96.3%、全国94.2%)
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」 (本校95.1%、全国93.3%)

本校の子どもたちの良いところがたくさん見られますが、すべての子どもたちのアンケート結果が肯定的な回答となるよう、今後も一人ひとりの良いところを認め励ます指導を大切にしていきたいと思います。

課題の見られた質問

- 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらい学習していますか」 【全くしないと回答した割合】 (本校31.7%、全国13.8%)
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きている」 (本校79.3%、全国90.4%)
- 「朝食を毎日食べている」 (本校70.7%、全国83.7%)
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」 (本校73.2%、全国81.0%)

本校の子どもたちの良いところがたくさん見られます。一方、規則正しい生活が定着していない子どもたちが、全国の子どもたちと比較して多いことが課題として見られます。

☆ その3② 学力が着実に定着してきました ☆

『令和5年度小学生すくすくウォッチ (教科に関する結果)』

実施日 令和5年4月18日

平均正答数 (問)		本校	守口市	大阪府
5年生	国語 (20問中)	15.8	14.8	15.7
	算数 (7問中)	2.6	2.4	2.6
	理科 (10問中)	6.3	5.9	6.2
6年生	理科 (10問中)	6.5	6.8	7.3
5.6年生	わくわく問題 (9問中)	6.2	6.1	6.4

5年生の国語や理科で大阪府平均を上回っています。
その他も大阪府平均との差は1問以内です。

☆ その6「未来に向かう力」と「好奇心」がバランスよく身に付いています ☆

『令和5年度小学生すくすくウォッチ (5.6年生児童アンケートに関する結果)』

「未来に向かう力」と「好奇心」について

子どもの将来には、テスト等で測ることのできる「学力」の他に、非認知能力が大きく関わっています。大阪府では、これからの予測困難な社会を生き抜くために必要な、「①目標に向かって頑張る力」「②気持ちをコントロールする力」「③人と関わる力」の3つを「未来に向かう力」と定義しています。本校の子どもたちは、アンケート全体を通して、「未来に向かう力」と「好奇心」がバランスよく育まれていることがわかります。特に「落ち着き」を図る質問で肯定的回答が多く、気持ちをコントロールする力が高いと考えられます。

児童アンケートにおいて、大阪府を基準として



強みの見られた質問

- 「何事にも一生けんめい努力する」
- 「学級は協力的である」
- 「困ったときに相談できる先生がいる」
- 「日直や係の仕事を頑張っている」
- 「授業中まちがっても笑われない」

課題の見られた質問

- 「自分でやりたい学習内容を考えて、家で勉強している」
- 「先生や友達が話していることで、大事だと思ったことをノート等にも書いている」
- 「新聞などでニュースを見ている」

3つの「未来に向かう力」と「好奇心」を尋ねる項目の標準化得点※を算出し、掲載しています。(数値は令和5年度の結果を表示) 令和4年度とほぼ同じ状況です。

※ 標準化得点：大阪府全体の結果から、平均と標準偏差を用いて変換した得点。大阪府平均を100として表しています。

☆ その7 落ち着いて行動できる力が身に付いてきています ☆

『令和5年度小学生すくすくウォッチ (児童アンケートに関する結果) 5.6年生』

児童アンケートにおいて、肯定的回答の割合が高い質問

- 「家の中にホッとする場所がある」
- 「家の人に褒められることがある」
- 「あなたは、困ったときに相談できる友達がいる」
- 「先生は、あなたの良いところを認めてくれている」
- 「先生は、あなたが間違っことをしたとき叱ってくれる」
- 「あなたの学級は、日直や係の仕事を頑張っている」
- 「話し合いをするとき、友達の意見を最後まで聞いている」
- 「黒板に書かれたことをノートに写している」

家の人や先生から褒められたり認められたりすること、困ったときに相談できる友達がいることで、気持ちをコントロールする力が高まり、落ち着いて行動できるようになってきていると考えられます。

1. 調査の目的 ・子どもたち一人ひとりが自らの強みを知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実につける。
2. 調査の対象 ・小学校及び義務教育学校前期課程 第5.6学年
3. 調査の内容 ・5年生：国語、算数、理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
・6年生：理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
4. 児童への資料提供「ウォッチシート（個人票）」の記載内容
 - ・アンケート結果からわかる児童一人ひとりのよいところ
 - ・各教科とわくわく問題の解答状況から見られる、児童一人ひとりのよいところ
 - ・各教科とわくわく問題のすべての問題について、児童一人ひとりの正答状況とそれに合わせたアドバイス

☆設問例☆ 家族の皆さんで「わくわく問題」にチャレンジしてみてください！！

③ 2025年に大阪・関西万博が開かれる予定です。ゆいさんたちのクラスでは、万博について興味をもったことを、班ごとにわくわく調べることにしました。

(1) ゆいさんたちは、1970年に大阪で万博が開かれたことを知りました。当時の万博会場の様子を写真を見て、案内看板に書かれている記号に興味をもちました。そこで、ゆいさんたちは記号について調べて、話し合っています。

[A]



この記号【A】は、案内所を表しているみたいだね。



万博会場には世界中の人が来ているから、記号で表すと、日本語がわからない人にも伝わるね。このような記号は、1970年の大阪万博で使われたことで世界中に広まったそうだよ。今でも駅などで見かけるものがあるね。

[B]



学校の非常口には、この記号【B】が使われているよ。何かあったときに非常口がどこにあるかすぐにわかるね。調べてみたら、非常口の記号も世界中で使われているみたいだよ。



記号だと、子どもたちや外国から来た人々にも伝えられるから世界中に広まったんだね。他にも、どんな記号があるか調べてみたいな。

ゆいさんたちは、現在使われている記号を調べて、集めました。

【ゆいさんたちが集めた記号】



いろいろな記号があるんだね。たくさんあるから、記号を種類ごとに整理してみようよ。



記号を「どのようなときに役立つか」で整理すると、次の3つに分けられそうだよ。

【どのようなときに役立つか】

- ① 見学するとき
- ② 移動するとき
- ③ とき

問1 【ゆいさんたちが集めた記号】を種類ごとに整理した場合、「どのようなときに役立つか」の③ の中に入るふさわしい言葉を書きましよう。

(2) ゆいさんたちが、記号についてさらに調べると、現在では、案内所を示す記号は「❓」と「ℹ」の2種類が使われていることに気がつきました。



「❓」は案内所を利用する人の気持ちを記号にしているね。
「ℹ」は案内所を表す、英語の「Information」の最初の文字から作られた記号だそうだよ。

1970年の大阪万博の様子を見ると、案内所の記号は「❓」だけだね。どうして現在では2つの記号が使われているのかな。調べてみようよ。



問い ひかるさん、えりかさん、ゆいさんは、案内所の記号について、いくつかの資料を見つけました。次は、ひかるさんたちが話し合っている様子です。ひかるさん、えりかさん、ゆいさんはそれぞれ、どの資料を見ているですか。あとの【資料1】から【資料4】の中から、それぞれ1つずつ選びましょう。

話し合いの様子



案内所の記号は「「ℹ」の方がわかりやすい」と答えた人数は、「❓」の方がわかりやすい」と答えた人数の2倍以上いるよ。

でも、中国の人は、「❓」がわかりやすいと感じる人が多いんだね。



中国や韓国から大阪を訪れる人が多いね。でも、それ以外のいろいろな国や地域からもたくさんの方が大阪を訪れているよ。



より多くの人にわかりやすく伝えるための工夫として、案内所の記号は2種類あるんだね。どうすれば多くの人にわかりやすく伝わるか考えることが大切なんだね。

2025年の大阪・関西万博では、世界中の国や地域からたくさんの方が来るだろうね。



大阪を訪れる世界中の人が大阪で過ごすときに困らないように、わたしたちも、ここは何をするところかを伝える記号を考えて、紹介しようよ。

(3) ゆいさんたちはそれぞれ、記号を作りました。まずは、えりかさんが自分の作った記号を見せながら、どのような工夫をしたのか班のみんなに話しています。

【えりかさんの作った記号】



うどん店

わたしは、うどんが食べられるお店の記号を作ってみたよ。うどんを知らない人にもどういう食べ物かわかるように、麺を太くしたり湯気をつけたりしたよ。



この記号なら、あたたかい麺の料理が食べられるお店だということが伝えられそうだね。

～(ゆいさんたちの話し合いは続く)～

【資料1】

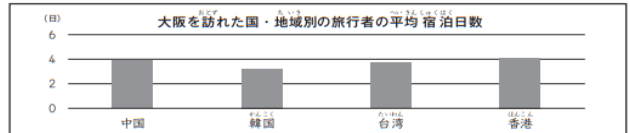
国・地域別の案内所記号のわかりやすさ

案内所を示す記号は、「❓」と「ℹ」の2種類があるって知っていましたか。観光庁は、案内所の「❓」と「ℹ」の記号のうち、どちらの記号がわかりやすいか、いろいろな国や地域から日本に来た旅行者を対象にアンケートをとりました。

その結果、インドやドイツから来た人は、「ℹ」の方がわかりやすいと答えた人が多く、中国から来た人は「❓」の方がわかりやすいと答えた人が多いとわかりました。韓国や台湾から来た人は、「❓」がわかりやすいと答えた人と「ℹ」がわかりやすいと答えた人が同じくらいでした。国や地域によって、感じ方が違うのはおもしろいですね。

出典：国土交通省観光庁「外国人旅行者に対するアンケート調査」(2011年)により作成

【資料2】



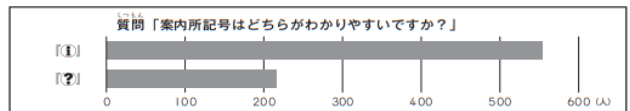
出典：大阪観光局「関西国際空港外国人動向調査」(2019年)により作成

【資料3】

順位	国・地域	人数
1位	中国	約 5642000人
2位	韓国	約 1608000人
3位	台湾	約 1276000人
4位	香港	約 719000人
それ以外の国・地域からの旅行者数の合計		約 3061000人

出典：大阪観光局「2019年年間来阪客数について」(2019年)により作成

【資料4】



出典：国土交通省観光庁「外国人旅行者に対するアンケート調査」(2011年)により作成

問い 大阪を訪れるすべての人が困らないように、何をするとどこかを伝える記号をあなたが作るとしたら、どのような記号を作りますか。

【記号】のらんに、あなたの考えた記号をかき、【記号にしたもの】のらんに、何を記号にしたのか言葉で書きましょう。また、【工夫】のらんに、記号を作るときにどのような工夫をしたか文章で書きましょう。
※下のわくは、下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。
解答は、解答用紙にかきましょう。

【記号】

【記号にしたもの】

【工夫】

☆ 今後も1年生から6年生までの一貫した取組みを進めていきます。☆

子どもたち一人一人が、確かな学力とこれからの予測困難な社会を生き抜くために必要な力を身に付けていけるよう、今後も教科等の学習と友達関係づくり等を授業の中で一体的に進めていきます。

◎ めざす子ども像の実現に向けて、一貫した指導を進めます。

- ・自他の良いところを見つけ、自分のことも相手のことも大切にできるよう指導します。
- ・ちがいを認め合い、相手のことを思いやり行動できるよう指導します。
- ・自学自律できるよう指導します。授業では「めあて」に対する「ふり返り」を書き、学んだことのより一層の定着をめざします。また、学習規律を身に付けます。

○ 「読む力」の育成

- ・読書活動の充実を図ります。
- ・音読活動をより丁寧に行います。
- ・問題文を読み、問われていることを確認するなど、授業中の読む活動を大切にします。
- ・自主学习（4年生以上）の中で、新聞のまとめ（要約・感想）に取り組みます。

○ 「書く力」の育成

- ・キーワードを使って書いたり、字数制限を行って書いたりするなど、様々な条件で書く指導を行います。
- ・各学年に応じて、日記・短作文・作文・意見文を書くことに取り組みます。

○ 「話す力」の育成

- ・発表やスピーチの際には、話の組み立て等を工夫できるよう指導していきます。

○ 「基礎計算力」の育成

- ・週3回放課後、5分間計算問題「ぐんぐんタイム」に取り組みます。

☆ ご家庭でもご協力をお願いいたします。☆

- ① 学校の行事や学習内容の話など、興味深く聞いてあげてください。
- ② ノートや作品などを見て、良いところを認め励ましてあげてください。
- ③ お子様の音読を聞いたり、時には読み聞かせをしたり、色々な本に触れる機会を作ってください。

児童の皆さんへ

- ☆ 朝ごはんは毎日食べて、一日のエネルギーをとりましょう。
- ☆ 起床時刻や就寝時刻が定まっていない場合は、一日の過ごし方を話し合って決めましょう。
- ☆ スマートフォンやゲームを使用する場合は、家族でルールや時間を話し合って決めましょう。

☆ 地域の皆様にも、引き続きご協力をお願いいたします。☆

地域の皆様には、いつも大変お世話になっております。登下校の見守りの際、「おはようございます」「行ってらっしゃい」「おかえりなさい」と子どもたちに声掛けいただき、ありがとうございます。また、地域行事に参加した際にも、励ましの言葉を掛けていただいていることで、子どもたちは気持ちをコントロールする力が高まり、落ち着いて行動できるようになってきています。引き続きご協力をお願いいたします。